



学校だより

わかまつ

鈴鹿市立若松小学校

No. 46

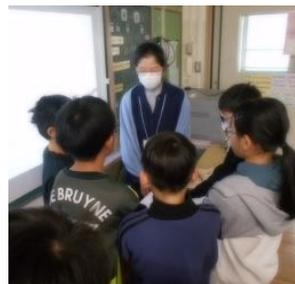
令和7年3月6日

㊦くわく㊦がやく子 ㊦なび合い㊦ながる子

☆「読み聞かせ」ボランティアさん

1年間ありがとうございました。

(3月4日)



5/14・28、6/11・25、7/9、9/17、10/1・15・29、11/12・26、12/10、1/21、
 2/4・18、3/4の計16回、「読み聞かせ」ボランティアさんにご来校いただき、朝の落ち着いた時
 間を提供していただきました。ありがとうございました。最終日には、子どもたちからの感謝のお手紙
 を各教室でお渡ししました。

～ ボランティアさんのアンケートより ～

- ・最後まで集中して聞いてくれて、読んでいてこちらも幸せな気持ちになりました。「春の本を読んでほしい」とリクエストしてくれる子もいて、うれしかったです。一年間ありがとうございました。
- ・1年生が回を追うごとに、よく聞いてもらえました。
- ・なかなか10分におさめる本を探すのが大変でした。もし、子どもさんの方からリクエストでも、知らないお話にふれる方が楽しみでしょうか。逆に読み聞かせの効果が、子どもたちにどのようなことがある、知れるとうれしいです。「読み聞かせ」ボランティアさん同士の交流があるとうれしいです。
- ・子どもたちからパワーをいただいて、ありがとうございます。

ボランティアさんを募集中です



※「読み聞かせ」ボランティアさんからも「新しいボランティアさんが入ってきてもらえるといいですね。」とお話がありました。保護者の皆様の中で、ご都合がつけば、ぜひ「読み聞かせ」ボランティア並びに学習ボランティアにご参加ください。

【お知らせ】

- ・3月5日(水)の5限目に地区児童会を行いました。翌日の6日(木)から、新しい班長・副班長を中心に登校しています。新しい班長・副班長と協力しながら、引き続き安全に登校しましょう。
- ・体育委員会がクラス単位で行うなわとびの企画を考え、全校で体力づくりに取り組みました。先日、体育委員会より、各クラスに「目標回数突破賞」などの表彰状が渡されました。

☆鈴鹿市のタイピングコンテストの結果について

クロムブックのタイピング(3・4年生はタイピングひよこ、5・6年生はプレイグラムタイピング)を使った市内のコンテストが今年もありました。若松小からは、5年生は さん、さん、さん、さんの4名、4年生は さん、さん、さん、さん、さんの5名、3年生は さん、さん、さん、さんの5名が参加しました。結果は、担任の先生から報告してもらいます。興味をもった人は、次回チャレンジしてみてください。

☆「ゴミのポイ捨てゼロ運動絵画コンクール」 ～ 白砂青松の海辺を取り戻そう ～

最優秀賞	5年
優秀賞	5年
	5年
	5年
	3年

若松地域づくり協議会の主催による「ゴミのポイ捨てゼロ運動絵画コンクール」に若松小からは42点応募がありました。

取り組まれた皆さん、ありがとうございました。

2月6日(木)に公民館にて、日本絵手紙協会公

認講師で、各地で絵手紙教室の講師を勤めてみえ

る荒木万里さんをはじめ、若松地域づくり協議会の

役員さんで審査を行い、優秀作品5点、入選12

点を選考していただきました。3月上旬から中旬に

かけて公民館にて作品を展示していただきます。

優秀賞の表彰式は3月15日(土)13時から若松公民館ホールで行われます。渡邊さんの作品

は、ポスターとなって、自治会の掲示板や公共施設、お店などに掲示され、「自分たちの住んでいる町をきれいにしたい」という啓蒙活動に活用されます。

入選	5年	5年
	5年	4年
	5年	2年

☆学習ボランティアの早川さん、お世話になりました。(3月5日)



早川さんには、約2年

間、1年生を中心に学習ボ

ランティアとして、授業中に

困っている子がいたら支援をしていただきました。本当にありがとうございました。ボランティア

の最後の日に、1年生の子どもたちからのお手紙をお渡ししました。

今年も一年、ボランティアスタッフとして入らせて頂いてありがとうございました。1年生の子たちと休み時間、給食の話をしたり若松の話をしたり腕相撲をしたり楽しく過ごしました。春、さみしくてしくくないていた子ども今はきちんと座り、授業で先生の話をしっかり聞ける姿を見て、みんなそれぞれに成長しているんだと嬉しく思いました。1年生担任の田辺先生は、子どもたちにしっかり向き合い、子どもたちの成長やがんばりを常に発信して下さっていました。できないこと(まちがってしまったこと)があったら、そのできないことを発見できたことがすごいことで、じゃあそれをどうしたらできるようになるかなと問いながら、子どもたちに考える時間を与えてくださっていました。指導する者がすぐに答えを出すのではなく、子どもたち自身で考えることで成長していく力が養えるんだと教わりました。(略)